



# 中里村立志伝考

柳 直 春

同じ日朝(二郎が慈眼寺山門に入る頃)精積は信濃川を渡つて来た。ちつぽけな渡し舟は水流に揺られて精積の前途に不安と心細さを与した。

精積の兄は静育と号し医者であつた。しかし、既に逝き、久しかつた。そんなことから精積は医者になることが興上の人となるの最意の事と考へた。それでそのことを書面にしたため家後後にしたのだつた。勿論父母に相談することが最上の策であることは知つていた。しかし兄が医者になり今又精積が医者になることは家の断絶を意味した。幸い姉が一人居たことがこの難問をどうにか切り抜けるに勇気を与えたのだつた。だから家督を姉に譲ることを含めての置き手紙であつた。十日町に來た精積は服部海海の門をたいた。服部海海は快く精積の決心をきいてくれた。服部海海は兄の師でもあつた。

精積は十日町時代には一つの挿話が残されている。精積という人は身長群を抜

とは精積の刻苦勉勵が並々でなかつたことを示す。そのうでないとすれば、この話はインテキであるか断言しなければならぬからである。

とにかく信古堂精育は誕生し、その名は自然の草木

## 優良乳幼児表彰行わる



35. 11. 5 表彰式 田沢小学校にて

が芽吹くが如く、温行篤実な患者との接見態度が太陽となつて、著しくなつた。そして人々は親切脈博上固い名医だと云つた。これだけならば信古堂精育の名は妻有の名医として郡誌にその光彩をとどめたに過ぎなかつたのだが弘化年間、師海海とともに長崎に渡り、当時国内に滲透し、世に認められて来た蘭学を勉強したことに精積の名を上げなければならぬ。

安永三年、前野良沢、杉田玄白らがオランダの解剖の書物を四年間の苦心の末「解体新書」として翻訳して西洋医学の進歩を紹介して六十余年。文政六年オランダ商館医師のドイツ人、シーボルトの長崎來朝、長崎郊外鳴瀬に塾を開き新しい洋学を全国に伝えてから二十年とはいひながら、以後蘭学者を始めとする学者達は蘭学に対する批判を鎖国に対する開国を唱えた。為に幕府は蘭学者達に対する警戒をはじめ、渡辺華山、高野長英等が処罰された幕府直轄に近い妻有の地から洋学地、長崎に出かけたら齊の志を壯とするよりも、その学問に対する真摯さに頭を下げざるを得ないのである。

そうして数歳、備前際しカテテール(導尿管、舶来の)を持ち來、本郡西洋医学の第一頁を飾つた。或る時、幕府の巡検中従医として廻り歩いた。その功によつて、精育は三月月

## 所得税第二期分納期限について

御承知のとおり所得税第二期の納税が十一月一日から開始されており、納期は三十日限りとなっております。毎年のことですが、今月は国税では所得税第二期、県税では事業税第二期、納税の月でそれ／＼納期が重なり、納税者の皆さんに御苦勞な月であります。全納税者の方々が十一月三十日まで完納されるよう、お願い致します。

# 社会教育関係団体と選挙

青年会、婦人会、PTA等の社会教育関係団体(社会教育関係団体)は、公の支配をうけない自主的な団体といわれ、(社会教育法第十条)教育、親睦、サービス(奉仕)の事業を行なうことを目的として、いろ／＼な社会教育的活動をやっていく団体である。その中でもいちはば大切なことは、自分たちがしあわせになつていくために必要なことから(教育)を身につけ、社会をもつと明るく、住みよく豊かにしていくにはどうしたらよいかを現実の生活を通じて学習してゆくということである。また、そこで学習された課題を一つ一つ解決するためのサービス(社会への奉仕)活動であるべきではないかと思ひます。社会教育の行なう社会へのサービス活動のすべてを学習にむきかきつて考えることは、むしろかもしませんが、しかし、もと／＼教育活動として、学習の伴なわぬ実践活動、実践の伴なわぬ学習活動はあり得ないことだと考へます。社会教育の活動が本モノかどうかはその点にあるのではないかと

思ひます。ちかごろ婦人や青年の人のちかごろの／＼なグループやサークルがうまれて、生活に結びついた身近な問題がしんけんし学習されていくことはたいへんすばらしいことですが、グループだけでは解決できない問題も少なくありません。グループと連絡をとつて、場合によつては、みんなの学習活動として発展させていくことが社会教育としてののぞましいあり方ではないでしょうか。

私たちの毎日のくらしと政治は密接なつながりをもつていくわけですが、くらしをよくしていくにはよい政治が行なわれなければなりません。その政治をやらせて貰う人を選ぶ選挙に於いてその議員候補者が真に私たちの代表として政治を委ねられる人であるかどうか、またその政策については充分研究しなければならぬこと、はいうまでもないことで、社会教育やグループで学習活動の中に候補者研究の問題としてとりあげていくと

選挙は、公職選挙法にもとづいて執行されるわけですから、選挙管理のためのいろ／＼な規定があります。そのことによつて消極的であるとするれば、せつかくの政治学習の一つの機会に接しながら残念なことです。

社会教育のねらいは、住民の自主性、社会性、協力を養い自分たちがいまよりもしあわせになるにはどうしたらよいかを考へることのできる「人間づくり」ということだと思ひます。その社会教育の活動をもつともつと活発にして本モノにしていくためには、できるだけ多くの機会をとりえて学習活動をつぎつぎとすすめていくべきです。

(社会教育係)

## 冬を企画しよう

### 読もう、かこう記そう

これから農業の仕事もゆとりがでてきて、本を読んだり話し合つたりする機会が増える季節がやってくる。自分を見つめ、自分の農業、経営を進めるためにあるいは自分達の村、国を理解するために、一人でも多くの村の読書家が、この機会に正しい本の読方を身につけることが大切だと思ふ。どうしたら自分達の生活を高めるように本を読むことができるか、だるうか、一、二の例を参考にしたい。その「家」のこたつにあたりながら、一方の耳から雑

談や世間話をきき、一方でまじめな本を読むということは仲々むづかしい。とにかく本を一人で読める静かな部屋を決めることだ。それと同時に本よみの仲間を作つて十日に二回位集まる日を決めて、そこに自分の読んだものを持ちより「自分はこれについてどう考へる。自分の経験からどう考へる。これはどうも間違つていないか」という態度、つまり本に読まれるのでなく自分が「本を読む」態度で批判し合う。こうした仲間を作るのだ。

(その二)それにしてもやはり、良い助言者がほしいものだ。その気になつて探して、よく話して頼めば村にだつて、人はいる。学校の先生、公民館の主任さん、普及員など……。そして、助言してくれたい人と一しよになつて議論をする。又学んだことを実行に移す、というようにしたい。

(その三)読み、学び、お互いに話し合うことが大切だと同時に、やはり自分ですんだ本の感想を書き現わすことが大切だ。わかつたつもりでも、いざ文字に現すとみるとなにか／＼難かしいものである。しかし苦勞をしても自分で何とか書いてみると、気のつかなくなつたこと、学び方の足りぬこと、などが途中ではつきりしてきて本當の勉強ができるようになる。冬の日記などは読んだ本の感想で埋めることも楽しいものだ。

「読書の冬」よみ本や雑誌を自分の生活を高めるためにするよう読書習慣を、この機会にしつかり身につけていこうではないか。村の農事研究会、4Hクラブ、青年団の文化部、そうしたところでも本よみ仲間が続々生れ育つことをこの冬に希うもの